

# 夢 塾 だ よ り

～ 偉大な数学者が学んだことは？ ～

(第 35 号)

令和 2 年 6 月 27 日



三度の医学部受験に失敗した私は数学を教えることを生涯の仕事にしようと思いはじめていました。数学の不出来で落ちたからです。数学さえできていれば今頃は内科の開業医になっていたことでしょう。私には父親譲りの持病があります。『痛風』です。38歳の時に初めての激痛（左膝）に襲われ三日三晩苦しみました。以来尿酸の生成を抑える薬、「フェブリク」を毎朝1錠飲み

続けています。薬を主治医のN先生から処方してもらいます。私もそんな医者になっていたかもしれません。ですが、今の私の生活と取り替えたいとは思いません。伸びゆく未来ある子供たちに、「数学」を教えることの楽しさから抜け出せないからです。まさに街の開業医のように、アイコンタクトで数学の「芽」と「目」を育てているからです。そしてその先にある人生の幸せをつかんでほしいからです。

ジョン・ナッシュという偉大な数学者がいます。映画『ビューティフル・マインド』の主人公です。偉大な数学者に贈られるアーベル賞授賞式での言葉です。

『私は数を信じます。理を導く方程式や理論、一生をそれらに捧げて今問うのは、論理とは何か？「理」の定義とは何かということです・・・答えを追って私は理学的また哲学的世界を旅し、幻覚にも迷いました。そして戻りました。そしてついに人生で一番重要なことを学んだのです。それは、

**謎に満ちた『愛』の方程式の中に『理』は存在する**ということです。

・・・今夜私があるのは君のおかげだ。君がいて私がある。ありがとう。・・・』

先日保護者から嬉しい手紙を頂きました。

『健勇先生いつも娘がお世話になりありがとうございます。中学校生活がスタートし、初めての事に緊張している様子が見られましたが慣れてきたみたいです。夢塾で、先生方の温かいご指導のおかげで勉強がわかることで毎日学校が楽しいと目を輝かせて話してくれます。数学がすごく好きになり、健勇先生みたいに子供たち一人ひとりの良さを引き出し褒めて教える事が目標だそうですよ！！』

その手紙を書き手くれたのは30年前中学1年生だった塾生でした。親子二代にわたり続いている信頼感、嬉しいですね。